

普通科生物16班

身の回りにあるものでろ過しよう！

班員 河内若菜 河野結衣 中富優依
那須優渚 日高孔晴

指導者 寺田侑世先生
飯干英治先生

研究の動機

災害が起こったときに私たちが生きていくためには水は必須であり、その水を自分たちの手で作りたと思ったから。

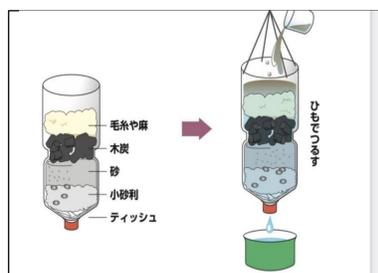
先行研究

活性炭と砂利と小石と砂を使うとろ過できることが分かっている。
他の道具でろ過できるか分かっていない。



研究方法

・自然のなかの身近にあるもので、海水をろ過して飲めるようにするための道具を発見する。
・道具を組み合わせ、水がどれくらいろ過されているのかが分かる検査キットを使って、何と何を組み合わせたらいちばんきれいになるかを調べる。



必要な道具

検査キット、ごみ、服、下着、タオル、マスク、ストッキング、葉っぱ、土、紙、水、ティッシュ



仮説

マスクとストッキングとティッシュを組み合わせると層にすると飲料水として飲めるくらいにろ過できると思う。

こんな感じ→



研究計画

- 1、検査キットを購入する
- 2、海水と蒸留水を用意する
- 3、道具の組み合わせを考える
- 4、検査キットで綺麗さを測る
- 5、道具を使ってどれが飲料水になるか調べる

例)

4～5月	組み合わせを考える
6～7月	考えた組み合わせで実験する
夏休み	考えた組み合わせで実験する
9～10月	どれが1番ろ過されているか検査キットを使って確認する
11～12月	ポスターにまとめる

参考文献

先行研究「下水道アドベンチャー自由研究その15」

<https://www.gesuido-adventure.jp/natsuyasumi/15.html>